

高退協ニュース

高知高退協
事務局
2001-11-13
No.113

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸ノ内2丁目1-10
TEL 088-818-2216 8822
0166501211 11893

第10回全退教四プロ 交流集会に78名参加

10月23日24日の両日、愛媛県内子町の「ハイプラザ内子」で、第10回四プロ交流集会が開催され、成功裏に終わりました。

地元愛媛県退教28名、高知県退教21名、徳島県退教9名、香川県退教8名、香川高退教7名、高知高退協3名、黒田全退教副会長、北岡照子高知退婦教会長の合計78名が参加。

なお、高知高退協の場合数年前に内子観光を行っていたこともあり、岡崎会長、中岡副会長、湯浅秀夫先生の3名の参加になりました。午後2時開会、各代表のあいさつの後、記念講演として「少年大江健三郎を語る」と題し、愛媛歴教協事務局長の澄田先生が熱弁をふるわれました。続いて各県高退協の代表6名が組織や会員の状況について報告し、質疑応答や補足発言がありました。午後6時20分から恒例の懇親会が始まり、楽しい交流が行われました。翌朝、女性懇談会がもたれた後、閉会式があり、木幡と白壁の街内子町を観光した後、各自家路につきましました。

高知県高齢者大会

を開く

高知県高齢者大会が10月6日ソールで開催、参加者は170名(高退協会員9名)で盛会でした。

今年の大会はお楽しみ企画「フラメンコの舞踊で開幕」、会長挨拶の後、重光事務局長から基調報告が提案されました。アメリカへのテロ事件にともなう報復戦争政策を許さないといくみ、老人医療制度の改悪案などいこのちを削る痛みを許さないといくみ、等々が提起されました。

記念講演は、参議院議員、医師の小池晃さん、「どうなる医療や介護 どうする私達」と題しての講演でした。老人医療制度の対象年齢を75歳へ引き上げ、医療費総額の抑制、また健保の本人3割負担など、医療制度の政府改悪案の問題点を明らかにした上で、これら痛みを伴う小泉改革に対し今後のとりくみとして、国庫負担の引き上げ、薬価の引き下げ、そして国民の健康づくりを訴えました。

国の責任を放棄し、一方的に国民に負担増を押しつける小泉内閣の医療抜本総改悪を許してはならないと決意を新たにしました。

催物の案内

12月8日(出)

「平和のつどい」
午後6時30分より県民文化ホール(オレンジ)で講演会が行われます。

妹尾 河童
「少年H」を語る
会員券 千円
是非ご参加ください。

訃報

9月26日、岩井清さん、28日、中田四一さんが逝去されました。
謹んでご冥福をお祈りします。

高退協25周年を祝う 望年会のおさそい

わづか30人でスタートした高退協もいま400人、かつての写真や高退協の足どり、多彩な作品や元気いっぱいのステージで25周年を祝う計画です。ぜひご参加ください。

とき 12月7日(金) 午後5時

ところ 高知城ホール 2F

会費 5000円

12月4日(火)迄に下記あてお申し込みください。

- ・中川正路 088-822-6778
- ・南千加良 088-844-5392
- ・高教組 088-822-6822

ご出演、ご出品のお願い

芸能大会に加えミニ美術展も開き、多彩な親睦をはかってきましたが、25周年の今年はいちだんと多い皆様のご協力をお願いします。
出演のご連絡は窪田一郎(844-0333)岡崎清恵(842-3747)まで。
出品は当日の3時搬入、展示。会場への搬送を希望される方は 南千加良(844-5392) 和田 明(843-2713)まで

老声草

これ程「政治の貧困」に腹が立ち、悲しく思ったことはありません。東京への旅の途中空港で出会った元同僚のK校長との会話で、その感をいっそう強くしました。

「就職難で生徒が無気力になり、投げ遣りになっている。その上、県教委から一方的に難題を押しつけられ、かつてないしんどさだ」とのこと。明るい未来が保障されない現実を考えれば、当然のことだと首肯かされます。

失業率が5.3%、リストラで失職や転職を強制される父親世代の悩みや苦しみを思うと暗澹とした気分になります。自殺者は三万数千人にも達し、奨学金の申し込みが急上昇しているとのこと。なのに、小泉内閣は「構造改革なくして経済再建なし」「失業で自殺する者なんかいない」と、庶民の生活実情を無視、そればかりか、高齢者医療制度のさらなる改悪を計画中とか。これが政治といえるのでしょうか。

その上、アメリカとの約束だとのことで、憲法無視の「報復戦争参加法」等、三法案を数を頼んでゴリ押し。戦後一貫して平和・民主主義擁護をめざし頑張ってきた私達だけに、ある種あきらめ気分が頭を持ち上げてきます。

だが待てよー「あなたが政治を忘れても政治はあなたを忘れない」主権者として、「国民本位の政治」と「恒久平和の実現」に向け、自らと子孫のために、いま一度闘わなくてはと思いませんか。健康に留意し頑張りましょう。(岡崎)



養老寺残日録 坪井 幹之

この9月から10月にかけて「アメリカ国立公園を巡る旅」に出掛けた。「山の会」の海外旅行も10回目となった。立案の段階から相当難航したが、21名の参加希望をえて9月10日には「結団式」に漕ぎ着けた。ところがなんとその翌日11日に今回の衝撃的な「同時多発テロ」が発生。急遽、旅行団で慎重協議、紆余曲折があったが、最終的には12名で出発することになった。

旅行の様子は、参加者みなさんによる紀行文集を機関誌「こうたいきょう」に掲載するのでお読み頂きたい。

現地アメリカの状況は表面的には冷静で、一応ブッシュ政権の方針で国論が統一されているようであった。ただ空港でのチェックが厳しいのと星条旗が多く目についたのが異様と言えは異様。われわれ

が訪れた観光地は結構人出があったが、現地ガイドの話によると観光客が激減しているとのことだった。

さて目的の国立公園である「グランドキャニオン」である。広大な台地にコロラド河が数億年をかけて刻み込んだ峡谷の壮大さは想像を超えていた。ヒマラヤが神々の造形ならば、このキャニオンは大魔神の彫刻であろう。

その他の国立公園や「モニエメントバレー」にも思いがあるが省く。西部劇の名作「駅馬車」や「シエーン」など懐古的心情にひたって旅を楽しむことができた。

アメリカの印象は「広大」の一言に尽きる。「イエローストーン」だけでも四国の半分、カルフォルニア州にある風力発電所の丘に林立する無数の風車塔にアメリカの底力を見た。超大国アメリカを理解するのは一筋縄ではいかない。そのことをつくづく感じた旅であった。

一言に尽きる。「イエローストーン」だけでも四国の半分、カルフォルニア州にある風力発電所の丘に林立する無数の風車塔にアメリカの底力を見た。超大国アメリカを理解するのは一筋縄ではいかない。そのことをつくづく感じた旅であった。

活動目録

【9月】

10日 「山の会」アメリカ旅行打ち合せ会

11日 9月度事務局会

16日・17日 全国高齢者集会(大阪市)

18日 「山の会」テロ事件発生でアメリカ旅行を中止決定、夜、9・18集会(高知城ホール)

25日 強い希望者12名で、アメリカ旅行実行、10月8日全員無事帰高

28日 岩井清さんの葬儀(土佐山田町)

29日 県革新懇世話人総会(東部健康福祉センター)

【10月】

1日 中田四一さんの告別式(高知市斎場)

2日 山下碩彦さん宅火災

6日 県高齢者集会(女性センターソール)

10日 緊急昼休み集会(市役所前)

11日 11・3憲法集会第一回打ち合せ会

13日・14日 県高校障害児学校教研集会(丸の内高校・女性センターソール)

11月

16日 10月度事務局会

19日 11・3憲法集会第2回打ち合せ会

20日 山原十選記念の会(三翠園)

23日・24日 第10回四国プロック交流集会

26日 「全教研高知集会の成功をめざす会」実行委員会

27日 中田四一さんを偲ぶ会

3日 憲法のつどい

【11月】

わたしは健康法 中岡 鉄夫

毎年八月と九月は、健診月である。去年は市役所へ電話で請求したら、受診票を送ってきた。

それで健康診断の予約を取り、受診したが異常なしであった。

今年も、請求しないのに受診票を送ってきた。それで、やはり予約を取り受診したが、異常はないらしい。今年も、歯科の健診票も

相撲三知識 四十五 林 勳

力士は入門して前相撲から取りはじめ、成績によって序ノ口、序二段、三段目、幕下：横綱、と上がってゆくのが普通であるが、学生相撲出身者など、入門前の実力を認められた選手がただちに幕下からスタートすることを「幕下付出し」という。

昭和四十一年以前には、幕下十枚目格、十六枚目格或は五十枚目格へ付出しした例もあるが(註・当時は厳密な規程がなかったように思われる)、昭和四十一年五月場所から「付出しは幕下最下位に限り認める」ことになった。

現在の幕下は、東、西六十枚ずつであるので、付出し該当者一人の場合は最下位の西六十枚目となり、二人以上の場合には入門前の実績によって、最下位から順次並ぶことになる。

付出しが認められる実績は「①全日本相撲選手権十六位以上、②全国学生相撲選手権、全日本実業団相撲選手権、国体成年Aの三大会で優勝、又は三位以上を二回以上、③対象は入門前二年の間」、であった。

これが、平成十三年一月場所から「①全日本選手権に優勝し、かつ右の全日本以外の三大会の何れかに優勝したので折角だと思つて、歯の健診を受けてみた。そうしたら、自分の歯が二十本あった。

八十才で二十本自分の歯があれば、よい方らしい。私はこの十一月九日、満八十才だから、まずまずといったところである。

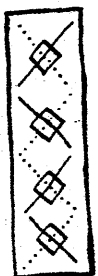
自分の歯は、一本百万かけてもなかなか戻ってこないで、大切に使わなくてはならない。歯がぐらぐらしたら、すぐに抜くけれども、一度抜いたら、おしまい、決してぬかれん。歯は、そつとしておいたら、じつと在り付くものである。

勝した者は幕下十枚目格、②右の四大会の何れかに優勝した者は十五枚目格、③対象は入門前一年の間」と相当厳しくなった。

なお、入門の年齢制限は、前相撲から入門する場合は「義務教育終了から二十三歳未満」であるが、幕下付出しは「二十歳以上二十五歳未満」となっている。

付出し入門者を二十歳以上としたのは、実力の世界とはいえず、二十歳に足りないう若さで幕下へいきなり入ることの先輩力士との人間関係を配慮したものである。また、上限を二十五歳としたのは、社会人として活躍している中に力をつけ、付出し資格を得た選手に門戸を広く開放するものである。

老眼鏡



岩波書店出版「敗北を抱きしめて」上・下を読みませした。アメリカのマサチューセツト工科大学教授のジョン・ダワー博士の著書です。ピュリツァ賞を受賞したものの。上巻の力バーに「一九四五年八月、焦土と化した日本に上陸した占領軍兵士がそこに見出したのは、驚くべきことに、敗者の卑屈や憎悪ではなく、平和な世界と改革への希望に満ちた民衆の姿であった。勝者による上からの革命に敗北を抱きしめながら民衆が力強く呼応したこの奇蹟的な『敗北の物語』を米国最高の歴史家が描いたもの」とあり、下巻には「日本の民衆が『上からのこの革命』に力強く呼応したとき、改革はすでに腐蝕しはじめていた。身を寄せる天皇を固く抱擁し、憲法を骨抜きにし、戦後民主改革の巻き戻しに道をつけて占領軍は去った。日米合作の『戦後』がここにはじまる」とあります。

敗戦後の日本の歴史を見事に描出して、自分史とのかかわりで大いに啓蒙される良書。是非一読を！ (K・O)